



光 和

2月号
練馬区立光和小学校
令和5年1月31日

光和小
携帯サイト



備えあれば憂いなし

校長 矢島 直行

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、早いもので年が明けてから1か月が過ぎました。令和4年度も子供たちの登校日数は残すところ、修了式、卒業式まで35日余りです。一日一日充実した学校生活を送ることができるようにしたいです。

学校では月に1回、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。実際の災害時に安全に避難することができるようにするためです。

3月11日は忘れることのできない日です。今から12年前のことです。午後2時46分に宮城県沖を震源に大きな地震が起こりました。被害を大きくしたのは津波です。多くの人、物を飲み込み、大勢の方が亡くなりました。

そのような中、釜石市の小中学生のほとんどが助かりました。「釜石の奇跡」と言われていますが、「逃げる」ことを実践した成果です。釜石市のある中学校では、地震が起きると生徒たちは自主的に校庭を駆け抜け、「津波が来るぞ」と叫びながら避難所まで移動しました。日頃から一緒に避難訓練をしていた、隣接する小学校の小学生たちも後に続きました。ところが、避難場所の裏手は崖が崩れそうになっていたため、男子生徒がさらに高台へ移ることを提案し、避難しました。その間、幼稚園から逃げてきた幼児たちと遭遇し、ある者は小学生の手を引き、ある者は幼児が乗るベビーカーを押して走りました。間もなく、指定されていた避難場所も波にさらわれました。間一髪で高台にたどり着いて事なきを得ました。ある小学1年生の男児は、地震発生時に自宅に1人でいましたが、学校で教わった通り、避難場所まで自力で避難しました。

東日本大震災は、私たちの想定をはるかに超えるものでした。そのような中においても、自分たちの命をいかに守るかを日々の訓練から習得していたことを実践することができました。地震はいつ起こるか分かりません。私たちも教訓として生かしていきたいです。

練馬区には避難拠点運営連絡会があります。震度5弱以上の地震が起きた場合、学校に避難拠点が立ち上がります。自宅にいられない方や帰宅困難者が学校に避難します。避難拠点運営連絡会は毎月開催され、定期的に訓練をしています。いざというときは避難拠点運営連絡会の方々だけではなく、保護者をはじめ、地域の皆様の協力が不可欠です。

2月25日（土）9時から13時、学校で避難拠点運営連絡会主催の防災訓練を行います。体育館では避難拠点の説明や備蓄品と寝るスペースなどの確認、備蓄倉庫前では仮設トイレや発電機、投光器、バーナーなどの設置訓練、校庭でははしご車や起震車の体験と消火器やAED使用訓練を行います。避難拠点が立ち上がったときを想定した訓練です。「備えあれば憂いなし」と言われるように、もしものことを想定してあらかじめ準備をし、いざというとき慌てずに行動することができるようにしていかなければなりません。子供たちや保護者の皆様も是非参加していただけたらと思います。